

巨匠の作品 作家ら歓喜

県立博物館・美術館

1/4

国展工芸沖縄展

「夢がかなった」「子どもたちにもぜひ見てほしい」。

「90回記念国展工芸沖縄展」が開幕した13日、会場の県立博物館・美術館には県内の工芸関係者が多く詰め掛け、沖縄にゆかりが深い巨匠らの作



国展工芸沖縄展で、展示作品について解説する国画会工芸部会員のルバー・ミヤヒラ吟子さん（左）13日、那覇市の県立博物館・美術館
品展示を喜んだ。（1面参照）

国画会工芸部沖縄支部長の新垣修さん（62）は、祖父や父と親交があった故濱田庄司さんらの在りし日を思い浮かべながら、「展示会は祖父や父の夢だったと思う。私の代でかなった」と感慨深げに語った。

今回、息子の寛さんとそろって作品を展示した新垣さんは「過去から現在につながる悠久の流れを感じてほしい。これを未来へつなげていく意味でも、沖縄の子どもたちにはぜひ見てもらいたい」と強調した。

国画会工芸部会員になって37年目の祝嶺恭子さん（79）は、沖縄初の国展開催に「会員の作品を集荷して、開催に至るまで神経を使った」と胸をなで下ろした。「沖縄の若い作家が刺激を受ける作品ばかり。ぜひ鑑賞し、力を伸ばしてほしい。開催できてよかった」と声を弾ませた。